

# エコアクション21 環境経営レポート

株式会社ミヨシ

[適用期間] 2023年4月1日～2024年3月31日

発行 2024年8月19日

作成 村越 真織

1. 組織概要
2. 対象範囲
3. 環境経営方針
4. 環境活動実施体制
5. 環境経営目標
6. 環境経営計画
7. 環境経営目標の達成状況
8. 環境経営計画の実施状況及びその評価結果
9. 来期の環境経営目標・環境経営計画
10. 環境関連法規等の順守状況の確認  
及び評価の結果ならびに違反訴訟等の有無
11. 代表者による全体の評価と見直しの結果

弊社は創業以来お客様の多様な「発想をカタチに」にお応えすべく邁進してまいりました。リアルタイムで進歩する技術革新の中、知識と実績に裏打ちされた自社一貫体制による最先端の技術力で最大限の対応に取り組んでおります。

【社名】	株式会社ミヨシ
【代表者名】	代表取締役 杉山耕治
【所在地】	〒124-0025 東京都葛飾区西新小岩5-19-14 Tel 03-3692-0662 Fax 03-3696-9557
【環境管理責任者】	村越真織  〈E-mail〉 gad@miyoshi-mf.co.jp 〈URL〉 <a href="https://www.miyoshi-mf.co.jp">https://www.miyoshi-mf.co.jp</a>
【事業内容】	(1) プラスチック製品の試作 (2) 射出成形金型の製作 (3) 射出成形加工 (4) 小ロットプラスチック製品の製作・加工 (5) 治具、機械部品の製作 (6) その他
【事業規模】	従業員数 18名（うちパート8人）  売上高 130,744千円（2023年4月～2024年3月）  床面積 404.1㎡

## 2. 対象範囲

【エコアクション2.1対象範囲】適用は全社・全従業員とします。

ミヨシが目指す姿は社会から必要とされ続ける会社です。

100年後もミヨシはものづくりで人々の生活を豊かにし、社会の役に立つ会社であり続けたいと考えています。

100年後の社会がどのようなになっているかは想像できなくても、どのような社会であってほしいかは考えることができます。

私たちは、未来の人類と地球上の生物にとって、持続的に発展できる社会であってほしいと考えています。

持続的に発展できる社会のためにはものづくりの過程で生じるエネルギーの削減や、作られたものがすぐに捨てられない、ライフサイクルが長い価値の高いものを作る必要があると考えています。

私たちはものづくりの過程で生じる環境負荷を抑えて、かつ、技術力を高めて人の役に立つものづくりを行うことを目指し、環境経営の継続的改善に努めます。

1. 自社において環境負荷低減の目標を作成し実行、持続する。
2. 環境に関する法規を順守し地域社会とのより良い調和を目指して行動する。
3. 環境目標として以下の5項目を重要項目とする。
  - ① 電気、化石燃料を適切に使用し、エネルギーの無駄な使用を抑えCO2排出量の削減に努める。
  - ② 生産活動における廃棄物の分別を実施しリサイクルを励行する。
  - ③ 水資源を保つ為に一人一人が節水を心がける。
  - ④ 化学物質の適切な使用と管理を行う。
  - ⑤ 環境負荷低減に関する自社の商品やサービスの販売促進を実施する。
4. 環境経営方針は従業員に周知し一丸となって遂行する。

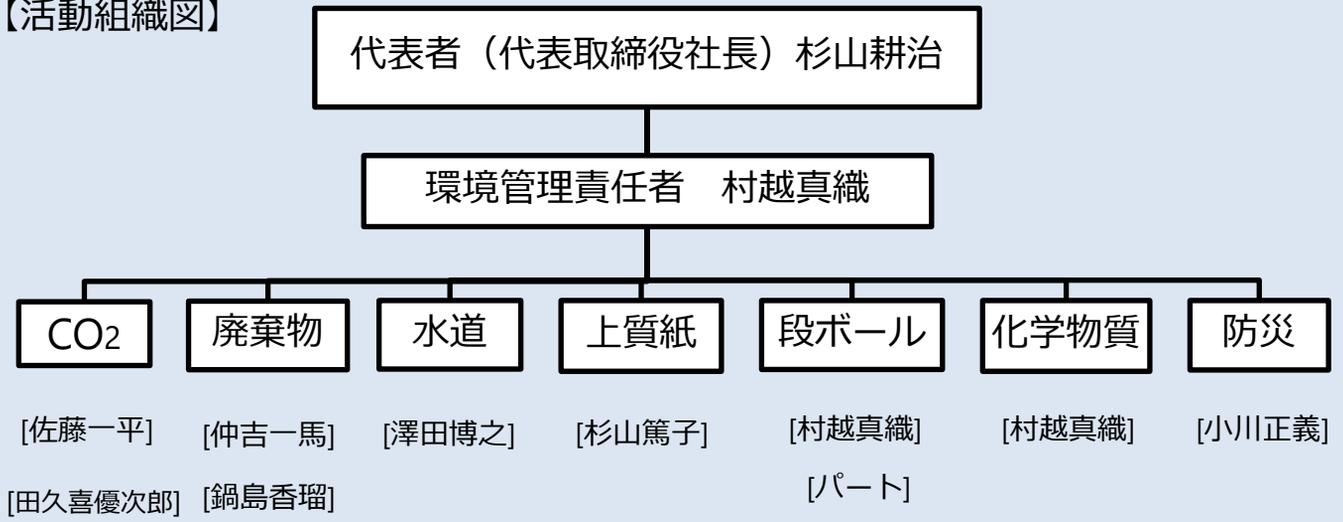
2006年11月制定

2018年 4月改定

株式会社ミヨシ

代表取締役 杉山耕治

【活動組織図】



	役割・責任・権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境方針の策定・見直し及び全従業員への周知</li> <li>環境経営システムの実施及び管理に必要な設備・費用・人・情報を用意</li> <li>環境管理責任者を任命</li> <li>EA 2 1 の活動内容に関するコメント・評価・指示</li> <li>代表者による全体の評価と見直しの実施</li> <li>経営における課題とチャンスを整理し明確にする</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムを構築・運用する（代表者からEA 2 1 の権限を委任）</li> <li>実施体制の構築（組織図及び役割・責任・権限）</li> <li>環境目標・環境活動実施計画書と実績表の作成</li> <li>教育・訓練の実施を指示</li> <li>環境上の緊急事態への準備・対応</li> <li>EA 2 1 の活動内容の記録と管理</li> <li>環境活動レポートの作成</li> <li>環境活動の取り組み結果を代表者へ報告</li> <li>EA 2 1 活動の推進</li> <li>環境への負荷及び取組チェックを実施</li> <li>環境関連法規等の取りまとめ表作成と遵守評価実施</li> <li>環境関連文書・記録の管理</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>各々担当した環境項目について年間の活動内容の詳細を決める</li> <li>各担当ごとに必要な集計・グラフ化と全従業員への回覧</li> <li>活動内容の進捗状況はコミュニケーションツール「slack」にて報告</li> <li>年間の集計と次年度への引き継ぎ事項の報告</li> </ul>

## 【今期の目標数値】 〈2023年度〉

項目	目標
CO2排出量の削減 ●電力使用量 ●灯油 ●ガソリン ※1	前年度(2022年度)実績値 より-2% ※2
廃棄物削減	前年度(2022年度)実績値 より-2%
ダンボール再利用	発送件数に対し再利用率 35%
水資源	前年度(2022年度)実績値 より-1%
化学物質	適切な使用及び管理
自社の商品・サービスの提案促進	環境負荷の削減のための弊社規格の交換ダイセットの提案促進

※1 ガソリンは営業活動に使用するため、目標数値の設定はせず、数値のみの管理とする

※2 当社の電気によるCO2排出係数は0.457(kg-CO<sub>2</sub>/kWh)〔東京電力エナジーパートナー〕

## 【中長期目標】 〈2019年～2023年度まで〉

項目	基準値	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
CO2排出量の削減	2018年度実績値	-2%	前年度 実績より -2%	前年度 実績より -2%	前年度 実績より -2%	前年度 実績より -2%
廃棄物削減	2018年度実績値	-2%	前年度 実績より -2%	前年度 実績より -2%	前年度 実績より -2%	前年度 実績より -2%
ダンボール再使用率	発送件数に対して	50%	50%	35%	35%	35%
水資源	2018年度実績値	-1%	前年度 実績より -1%	前年度 実績より -1%	前年度 実績より -1%	前年度 実績より -1%
化学物質	—	適切な使用及び管理				
自社の製品・サービスの提案促進	—	環境負荷低減のため、弊社規格の交換ダイセットの提案促進				

### CO<sub>2</sub>排出量の削減

#### 【電気使用量】

活動内容	詳細
◆電気使用量調査	月ごとの使用量をグラフ化し資料を共有する
◆エネマネシステムの活用	ピーク電力の管理を行い、コスト削減につなげる
◆エアコンのメンテナンス	夏前、年末にエアコンのフィルタ清掃を行う
◆エアリークチェック	工場のエアーガンのエアリークチェックを行う(6月)
◆エアコン使用基準の確認	場所ごとのエアコンの使用基準に基づく使用と確認
◆断熱対策を行う	断熱が必要な場所に対策を行う

#### 【灯油】

活動内容	詳細
◆灯油使用量の削減	エアコンをメインで使用し、ストーブはスポット的に使用する
◆灯油購入量の削減	灯油は必要分のみ購入する

#### 【ガソリン】

活動内容	詳細
◆エコドライブの推進	エコドライブの呼びかけを行う
◆燃費の管理	可能な限り燃費の管理をする

### 廃棄物削減

#### 【ごみの排出量】

活動内容	詳細
◆廃棄物量の集計	種類ごとの廃棄物量の集計と報告書の作成・共有
◆廃棄物削減の工夫	無駄の無い材料の発注を行う
	技術の向上により不良率を下げて材料の無駄を無くす
	金型製作時の工夫により廃プラスチックの削減を目指す

#### 【ダンボール】

活動内容	詳細
◆再使用率の調査	再利用したダンボールを大きさごとに集計する
◆エコシールの活用	再利用ダンボールにはエコシールを貼付する
◆再利用の呼びかけ	再利用の呼びかけを行う
◆実施状況の確認	発送前にシールの貼り忘れがないかチェックする

### 廃棄物削減

【上質紙】

活動内容	詳細
◆上質紙の分別と集計	再利用率を上げるために分別をしっかりと行い、集計をする
◆再利用の工夫	最大限に紙を無駄にしないように工夫する
◆FAX印刷の削減	印刷前に各担当に確認し、必要なものだけ印刷をする
◆電子化の推進	紙での印刷物を減らせるよう、電子化をすすめる
◆用紙サイズ変更の検討	上質紙の使用量を減らすために用紙サイズの見直しを行う
◆印刷ミスを減らす	印刷前に内容・設定の確認を促す呼びかけを行う

### 水資源

活動内容	詳細
◆節水の呼びかけ	継続して節水の呼びかけを行い、無駄な使用をなくす
◆水の使用量の調査	水道メーターによる使用量チェックと請求明細の照合
◆成形機チラーの活用	水道使用量を減らすために成形機チラーを活用する

### 化学物質

活動内容	詳細
◆安全な管理	保管方法の確認を行い改善点があれば実施する
◆使用量の調査	購入表を作成し運用方法を定める

### 自社の商品・サービスの提案促進

活動内容	詳細
◆交換ダイセットの提案促進	材料の節約と保管スペースの縮小のため可能な限り提案する
◆自社製品の開発と販売	環境に配慮した材料を使用した製品の開発をし販売を行う

### 防災

【防災】

活動内容	詳細
◆工場のラインテープの確認	安全な動線確保のためラインテープのチェックを行う
◆消火器訓練	消火器の使用の仕方と避難方法の確認を行う
◆社内の安全チェック	社内に危険箇所が無いかの確認と対策を行う

## 2023度 環境経営目標の実績

項目	単位	基準値 (2022年度)	目標[%]	目標値	実績値	前年比[%]	目標比[%]
電力量	kWh	90,285.0	-2%	88,479.3	96679.0	107%	+9%
	CO2-kg	41,260.3		40,435.1	44182.3		
灯油	L	60.0	—	0.0	108.0	—	—
	CO2-kg	149.4		0.0	268.9		
CO2目標分(合計)	CO2-kg	41,409.7	—	40,435.1	44,451.2	—	<b>+10%</b>
ガソリン	L	1,279.7	—	—	552.0	43%	—
	CO2-kg	2,968.9		—	1280.6		
CO2排出(合計)	CO2-kg	44,378.5	—	—	45731.8	<b>103%</b>	—
一般廃棄物	kg	1,297.1	-2%	1,271.2	1368.6	105%	+8%
産業廃棄物	kg	3,918.4	-2%	3,840.0	4453.2	113%	+16%
廃棄物(合計)	kg	5,215.5	—	5,111.2	5821.8	<b>112%</b>	<b>+14%</b>
ダンボール (再利用)	件	〈発送件数〉 577	35%	〈目標〉 202件	〈実績〉 135	<b>再利用率 30%</b>	
水資源	m <sup>3</sup>	274.0	-1%	271.2	292.0	107%	<b>+8%</b>
化学物質	適量の使用および適切な管理を行った						
自社の商品・サービスの提案推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金型製作受注のうち<b>97%</b>は(交換ダイセット)で対応した</li> <li>・ECサイトでの自社製品の販売 →前年度と比べ<b>約2.5倍</b>の売上となった</li> </ul>						

◆基準値・・・前年度(2022年度)の実績値

◆ガソリンについては、営業活動に使用するため目標数値の設定はなし

◆当社の電気によるCO<sub>2</sub>排出係数は、**0.457(kg-CO<sub>2</sub>/kWh)** [東京電力]

◆段ボールの発送件数には運送会社指定の段ボール分は含まず

## 2023年度 社内の記録

日付	項目	内容	内容・実施結果・全体への周知内容ど	掲載ページ
<b>2023年</b>				
4/6	電気	エアコンのスケジュールタイマーリセット	温度を見ながら適時エアコン操作すること	—
	廃棄物	廃棄物量の集計記録漏れがあった	廃棄量が確定次第すぐに書くようにする	—
6/6	電気	コンプレッサー圧力設定変更	機械が止まらないか様子を見る	—
6/7	電気	エアコンフィルター清掃	金型室天井の扇風機の清掃も行った	P12
6/8	電気	梅雨時期のエアコンの使用調査開始	作業中に暑さや湿度で不快感がないかを全員で確認	—
6/13	廃棄物	今期の廃プラが急増！	材料の整理による廃棄分が原因。 不良率も正確に記録しよう	P14
6/14	電気	エアーガンのエアーリークチェックを実施	4カ所にエアーリークが見つかった	P12
6/16	電気	最大デマンド測定機器の不具合による交換	30分ごとのデマンドが取れていない日がある	—
6/27	水道	ワイヤー室の蛇口の水漏れ修繕	パッキンを交換し水漏れが無いことを確認	—
7/3	電気	社屋外周への日よけ設置	直射日光が当たる室外機の対策が必要	P13
7/26	電気	室外機への日よけを追加で設置	上記の対策実施	—
8/7	廃棄物	金属くずの有価物回収	2023年度1回目の実施	—
8/12	電気	台風接近のため日よけの一時片付け	日よけが台風により倒れるなどして近隣に迷惑がかからないようにするため一旦撤去した	—
8/12	電気	今期の最大デマンド値の共有	昨年を上回らずにここまで来ているので夏季休暇明けの機械使用時にはなるべく時間をずらしながら使用を開始すること	P11
10/26	水道	漏水の可能性に関する調査	水道使用量の増加により、詳細な使用量調査を行った結果、夜間にメーターの動きが無かったため、水道の閉め忘れの可能性あり	P16
11/22	廃棄物	アルミの切粉の処理の変更	廃棄していた加工後の切粉を有価物として持込を行った（今年度初の取組）【1回目】	P15
11/23	廃棄物	廃棄物の出し方についての注意喚起	廃棄物集荷業者より分別の徹底について依頼の連絡があったため社内でも共有した	—
12/13	廃棄物	アルミの切粉の持込	【2回目】	—
12/26	廃棄物	スプール粉碎材テスト	廃棄していたスプール部分の再利用化に向けた粉碎機のテストを実施	—
<b>2024年</b>				
1/24	電気	工場の断熱対策	シャッターやドアの近くの断熱の試験運用開始	P13
2/2	電気	停電時の対応についてのリスト作成	計画停電時の対応の確認→待機電力の削減につながる	—
2/22	廃棄物	アルミの切粉の持込	【3回目】の実施	—
3/27	廃棄物	アルミの切粉の持込	【4回目】の実施	—
3/28	防災	消火器訓練	消火器の使用方法の体験、地震時の避難方法など	P18

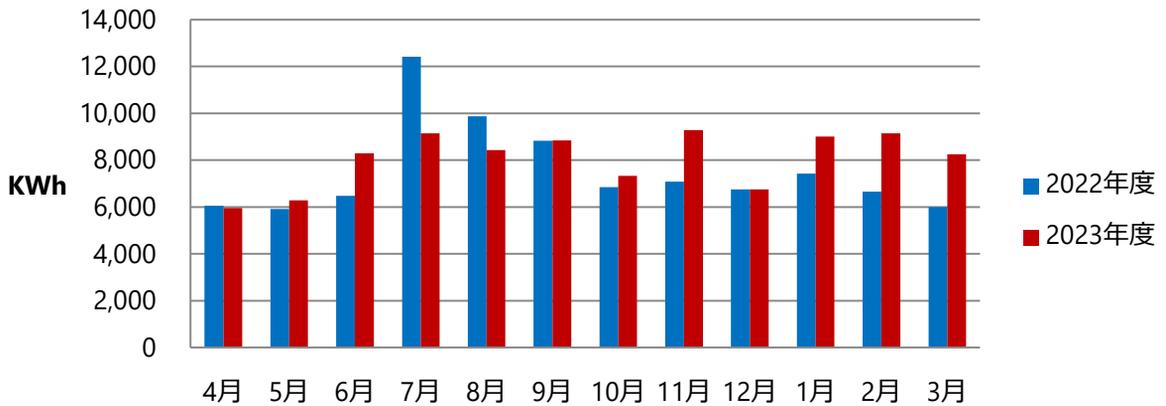
CO2排出量の削減 ◆ 電気使用量

◆ 電気使用量の調査

今期も引き続き前年度との電気使用量の比較グラフの共有を行った。(グラフ1)  
 使用量は主に機械の稼働率の影響が大きいと思われるが、エアコンの適切な使用方法について確認と見直しを行いながら、断熱対策にも力を入れて来期以降も無駄な電力の消費を抑えるように意識して行動したい。

〈グラフ1〉

【電気使用量比較】

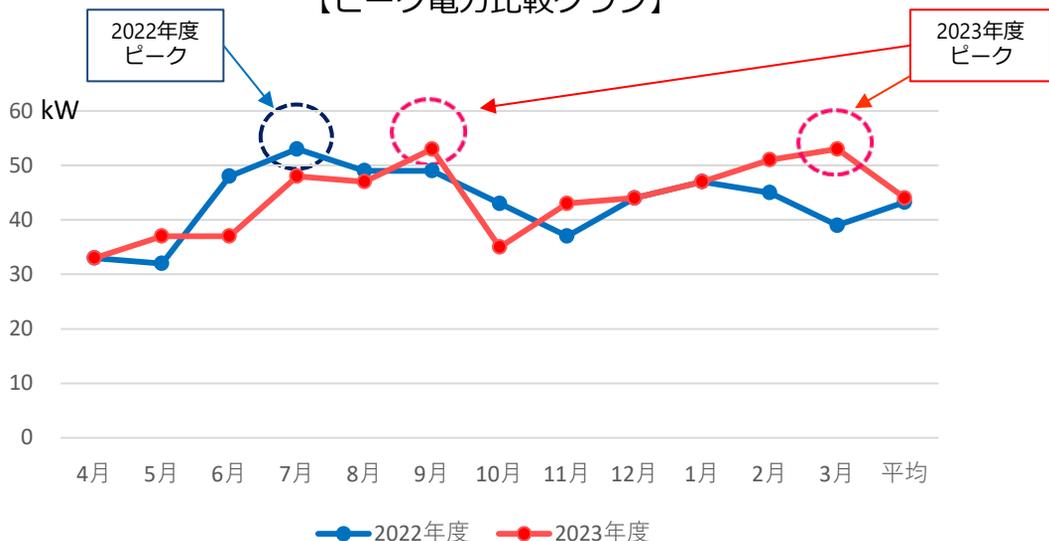


◆ エネマネシステムの活用

電力会社のエネマネシステムを利用し、ピーク電力の測定値の確認を行った。(グラフ2)  
 エアコンを使用する季節はタイマーセットの時間をずらしたり、長期休暇の後などは機械の立ち上げ点検を行う際の電源を入れる時間にも注意し対策を行った。来期も機械・エアコンの稼働状況を事前に確認し共有しながら管理を行っていく。

〈グラフ2〉

【ピーク電力比較グラフ】



CO2排出量の削減 ◆電気使用量

◆エアコンのメンテナンス

夏のエアコン使用前と、冬季の暖房使用前に社内のエアコンのフィルター清掃を行った。工場のフィルターは油汚れが多く、事務所や作業室はほこりで詰まりやすい。半期に一度のフィルター清掃を実施し、設備が効率良く機能するように継続していく。



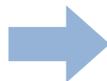
◆エアーガンのエアリークチェック 【実施日：2023/6/14】

工場のエアーガンのエアリークチェックは、毎年暑さのピークを迎える前に実施すること決め、エアー漏れ箇所の発見につながり、無駄なエネルギーの使用を防ぐ手段として今後も継続する。



◆エアコン使用基準に基づいた使用

社内の各場所ごとにエアコンの温度設定を確認し、使用基準をスイッチのところに掲示している。継続して作業環境をと問えながら気候や状況に応じた対策をとる。梅雨時期の湿度対策にも重点を置き、場所ごとの調査を記録して基準の見直しを行う。



エアコン使用基準【事務所】						
設定	つける基準	目標	基本設定温度	設定下限	風量	風向き
冷房	室温29℃以上、湿度55%以上	室温：28～29℃	28℃	27℃	自動	自動
除湿冷房	室温28℃以下、湿度65%以上※	湿度：50～60%	28℃	室温-2℃まで	自動	自動
暖房	寒いと感じるとき	室温：20℃	20℃		自動	自動

※または用紙がうねるなど仕事に支障が出る場合  
 ・温度調節や入切は状況に応じて各自の判断で行うこと  
 ・上記設定のほか、サーキュレーターで空気を循環させる

【タイマー設定登録内容】

設定	設定No.	設定温度	ON	OFF	曜日	風量	風向き
暖房	シーズン1	20℃	6:00	21:00	月～金	自動	自動

※長期休みの前はスケジュールタイマーを無効にする

\*足元の冷えにはストーブ！  
 \*ウォームピズも忘れずに！

### ◆断熱対策 ①夏季の日よけ対策

コンプレッサー室や、工場への夏の日差しを避けるため、すだれやビニールシートなどで対策を行っている。今期は日よけ資材を機能性と統一感を兼ね備えたものに新調した。来期も設置の仕方の変更も検討する。



前期までの設置



今期の設置

### ◆断熱対策 ②工場の断熱対策

エアパッキンを設置してドア付近の隙間風対策をしたり、大きなシャッター部分は布を設置し断熱効率を上げる工夫を行った



エアパッキンでの断熱対策



シャッター部分への布設置

## CO2排出量の削減 ◆灯油使用量の削減

### ◆灯油購入量と使用量の削減

今期もエアコンの暖房をメインに使用し、必要な分だけ灯油の購入し、スポット使用を心がけた。今後も作業効率向上のために作業環境を整えながら、無理の無い範囲で削減していく。

## CO2排出量の削減 ◆ガソリン

### ◆エコドライブの推進

弊社でのガソリンの使用は営業活動が中心なため、使用量についての目標は定めていない。エコドライブについては意識が薄れないよう、運転席に資料の掲示を行っている。

### ◆燃費の管理

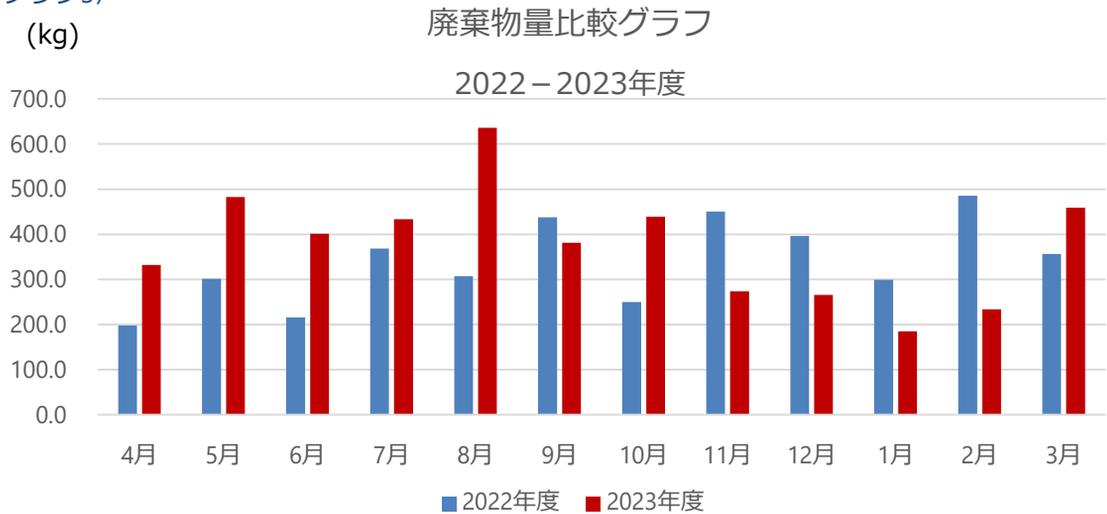
給油時の記録シートにて燃費の確認を行った。今後も可能な限り燃費管理を行っていく。

廃棄物削減 ◆廃棄物量の集計

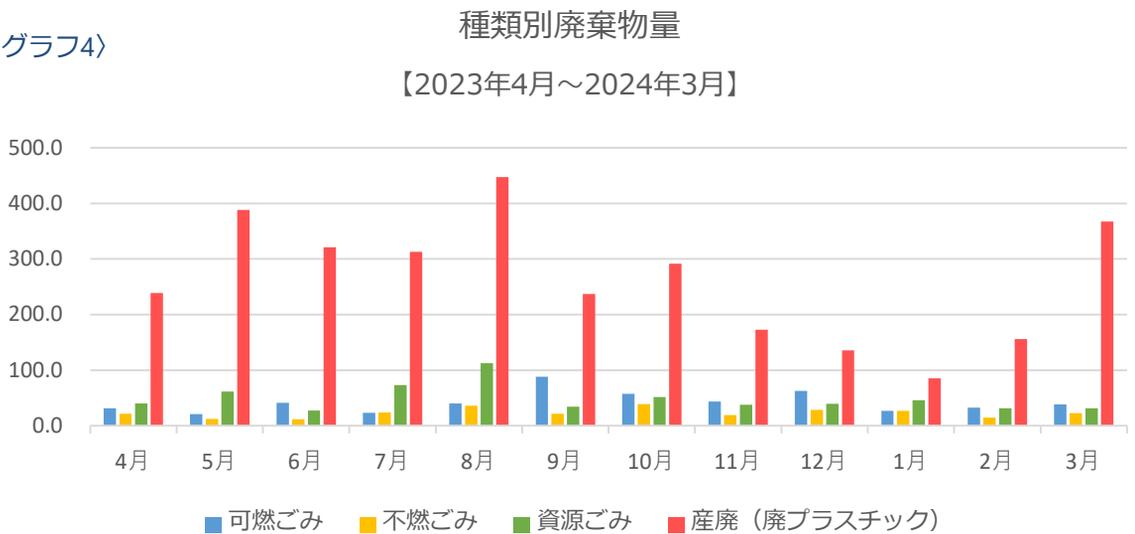
〔廃棄物の集計方法〕 ごみの収集日に、場所、種類ごとに自分たちで測定し、手書きの表に記入。月ごとに担当が集計しグラフ化する。(グラフ3・4)  
 金型を洗浄する際に使用するパーツクリーナー(スプレー缶)について、環境負荷を減らすために使用量の削減を目指し、前期より使用量把握のための廃棄本数の集計を開始。(表1) 結果は前期よりも**15本の削減**が出来た。  
 削減のために繰り返し使用可能な「洗い油」で対応可能な場合は代用を推進している。来期以降も継続しデータの比較を行い、削減につながるようにしたい。

〔廃棄物量報告書〕 前期との比較や種類別のグラフを共有し、廃棄物削減の意識を高めている。

〈グラフ3〉  
(kg)



〈グラフ4〉



〈表1〉

【2023年度 パーツクリーナー使用量】

2023年									2024年			単位(本)
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	10		11			11		13			12	57

## 廃棄物削減 ◆ 廃棄物削減の工夫

## ◆ 産業廃棄物の削減

産業廃棄物の大部分は前頁の〈グラフ2〉の通り、成形作業により出る廃プラスチックであるが、弊社は主に試作開発、研究に係る案件が多く、プラスチック材料の再利用が不可の場合もあるため廃棄量が増える傾向にあるが、以前のように長期保管をせず、取引先からの支給材料は使用後に速やかに保管や返却の確認を行い、廃棄量を少しでも減らせるよう取り組みを行っている

また、前期の計画に基づき、材料の使用を少しでも削減するため、金型製作時のスプールとランナー部分を小さくするためのテストや検証を行い基準を作成し、小径化を実施した。(2024年3月に完了) 今後の課題としては、成形に関する技術や品質管理に力を入れ、不良率を下げ、廃棄量を減らせるようにしたい。

来期は、粉砕機の購入を予定しており、今まですべて廃棄していたスプール・ランナー部分を再利用できるようにする。機械購入後は、試験を行い運用基準を作成し廃プラスチックの削減を目指す。

## 廃棄物削減 ◆ アルミの切粉の処理の仕方の変更

## ◆ アルミの切粉を有価物回収へ

金型製作の過程でアルミを加工した際に出る切粉の処分方法について、油が混じっていることもあり、引き取り業者がなかなか見つからず、長年の課題であった。今まではすべて廃棄物として出していたが、今期は引き取ってもらえる業者を探し、有価物回収が実現した。

〈今期の実績〉

【持込総重量】 230kg 【回数】 4回

## 廃棄物削減 ◆ ダンボール

## ◆ 再利用マーク（エコマーク）の活用

継続して取り組んでいる発送ダンボールの再利用シール貼付について、目標は**35%**としているが、量産品では梱包仕様が決まっているため再利用ができない場合も多く、可能な範囲で実施している。前期の25%から今期は**30%**と、5%再利用率を上げることが出来た。

また、引き続きサンプル品の発送の際や加工依頼時などは、可能な限り部品購入時のダンボールを再利用したり、コンパクトな資材を利用して緩衝材の使用を減らす工夫も行った。

取組を始めてから5年目となり、お客様から送られてくる品物にも弊社で貼付したエコシール付の段ボールを見かけることが増えている。

今後もこの取り組みが広がるように取組を続けていきたい。



## 【再利用シールを使うメリット】

- ①社内でのデザイン案から全員の投票で決めた親しみのあるマークで、楽しく取り組める。
- ②毎月末に各大きさごとのシールの残りの枚数を数えることで集計時間の大幅な削減ができる。
- ③あえて社名を入れず、発送先のお客様に更に再利用をしてもらいやすくすることで、エコ活動の拡散につながる。

### 廃棄物削減 ◆上質紙の削減

- ◆上質紙の再利用については、徹底した裏紙の使用が出来た。  
今期の裏紙使用は**A4用紙で約3700枚分**（月平均308枚を再利用）  
基本的な印刷を裏紙専用力セット設定している効果が高いと感じる。
- ◆社内書類や掲示物など、可能なものはA4サイズからA5サイズへと変更しあらかじめ半分にカットした状態で複合機へセットし上質紙の使用量を減らせるようにした
- ◆FAX受信時はなるべく上質紙を使用しないよう、各担当に内容の確認をしてから必要な分のみ印刷し、画面確認のみで対応できる場合は印刷をしない取組を行っている。  
また、今期は電子帳簿保存法の開始によりメール添付での文書のやりとりが増えたこともあり、紙での印刷や郵送も減少した。
- ◆複数コピーをした際は設定をクリアすることを呼びかけ、印刷ミス無くすよう呼びかけをした。

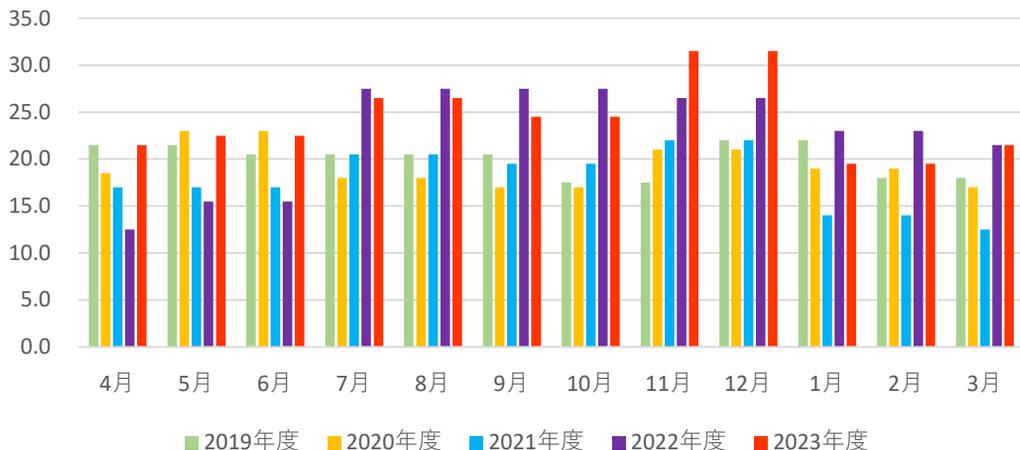
### 水資源 ◆水道使用量の調査

今期も毎日朝と夜に水道メーターでの実測値の記録をとり、請求明細との照合を行った。漏水があった場合の早期発見につながるため今後も継続して行う。  
今期は水道使用量の管理会社からの漏水確認依頼が2回あり、作業終了後にチェックを行い、漏水は見られなかった。  
また、水の出っぱなしがあった場合は情報を共有し無駄な使用を減らす意識付けを行った。

〈グラフ4〉

水道使用量比較グラフ

2019 - 2023年度



2017年7月の成形機用チラー(空冷式冷水循環装置)の導入以後、水の使用量が減少し毎月20m<sup>3</sup>~25m<sup>3</sup>程度で安定している(グラフ4)

チラーは3台の射出成型機すべて金型を冷やす際に活用している。

また、成形機ホッパー下の温度の最適化を材料ごとに再設定し、生産工程の見直しをし作業の効率化をすすめた。今後も継続して活動を続ける。

### 化学物質

薬品棚の確認をし安全に管理を行っている。使用の際は薬品使用メモへの記入をする。来期は化学物質管理表の見直しを行い、購入量の記録を行う。使用量は作業に負担がかからない効率的な方法を決めて管理する

※当社は洗浄剤と防錆剤で少量の薬品(PRTR対象外)を使用をしています。

### 自社の商品・サービスの提案推進

#### ◆交換ダイセットについて

金型作成時、製品に関わる部分のみを交換し、共用出来る部分は共用する仕組み。

必要部分のみの製作となるので工期の短縮が図れ、材料も節約できる。

保管場所も少なくできるというメリットがあり、環境負荷低減にもなるため、可能な限り提案し推進している。今期の受注金型のうち**97%**は交換ダイセットで作製した。

#### ◆自社製品の開発・販売

環境に配慮した材料を使用した自社製品の販売を継続して行っている。

今期はECサイトでの販売にも力を入れ、柄の長いスプーン「SNOPPO」はお客様からご要望いただき左利き用も新たに製作・販売。また、パッケージの改良も行い、前期よりも**売り上げが約2.5倍**となった。

今後も環境に配慮した素材で長く使っていただけるもの、世の中にはないものを全員で話し合いながら製作を行い、私たちの活動が環境負荷低減につながり、地球環境の保全に少しでも役立てるきっかけとなるような活動を続けていきたい。



今期の発売した『ミニアニマルクリップ』



柄の長いスプーン『SNOPPO』の新パッケージ

#### 【SNOPPOに使われている成形材料】

〈PP〉

国内でよく使用される合成樹脂。軽量で耐熱性、耐薬性に優れ、つやがあるのが特徴。

〈トライタン〉

医療器具製造の会社が開発した「コポリエステル樹脂」という合成樹脂の素材。高い透明度、耐久性、安全性が特徴。

〈ライスレジン〉

お米(非食用)由来の国産バイオマスプラスチック。とても滑らかな質感

## その他の活動 ◆防災

## ◆工場のラインテープ

1. 地震などの災害時の対策として、工場の通路の安全を確保するため、通路や、機械の稼動範囲にラインテープを貼り安全を確保している。また、通路以外でも機械が動いた際の危険箇所はテープで囲い、物を置かないように対策をしている。

また、防災担当だけでなく毎月の点検当番がはがれた箇所が無いかのチェックを行い、協力して管理を行っている。



## ◆消火器訓練

2024年3月に消防署の方の指導のもと、消火器の使用の仕方と手順の訓練を受けた。いざというときにどういう行動をとればいいのかを学ぶことが出来た。

## ◆地震や火事発生時の対応について

消火器訓練後に消防署の方より地震や火事発生時の対応についてのアドバイスをいただいた。工場内には機械や重量物が多いため、地震発生時は一番近い出口から出るのが安全。火災の原因で多いのは、コンセントにたまったほこりから発生するもの。年に1回は挿したままになっているコンセント部分の掃除を行うようにする。



消火器訓練の様子

## その他の活動 ◆地域とのコミュニケーション

## ◆清掃活動

週ごとに社内・社外を含めた各場所の清掃当番を決め、近隣の道路や駐車場の清掃を毎日行っている。

綺麗な環境を保ち、地域住民の方との挨拶や会話など、積極的にコミュニケーションをとりながら今後も良好な関係を築いていけるように活動を継続していく。



## ◆かつしかライブファクトリー

2019年から毎年秋に、葛飾区の製造業と協力し、ものづくり文化を知ってもらうためのイベントとしてオープンファクトリー、ワークショップを開催している。

5回目となる今回、参加いただいた方に「柄の長いスプーン【SNOPPO】」と「アニマルクリップ」の成形体験をしていただいた。

環境に優しい材料での製品づくりや体験に大変好評をいただいた。

今後も『捨てられないものづくり』『人の役に立つものづくり』という企業理念のもと、必要とされるものを環境に配慮した素材で製作していきたい。



社内の風景



ワークショップ風景



### その他の活動 ◆環境コミュニケーション強化

#### ◆コミュニケーションツール「slack」を使用した情報共有

2022年6月より、エコアクション2.1の活動の社内の情報伝達方法としてslackの活用をしている。以前は紙で印刷して回覧をしていたが、タイムリーに情報が共有できるため、課題解決のための対策を実施するまでのスピードも上がった。今期は前期よりも活発な使用があり、「全員で取り組む省エネ活動」の推進に役立てることが出来た。

〈今期の投稿例〉

6月14日(水)

佐藤一平 10:19

【電気】エアリークについて↓

6/5に、田久喜、佐藤でエアークのエアリークチェックを行いました。↓

月例点検報告で口頭で説明していましたが、結果をSLACKでも報告します。漏れていた箇所は4か所↓

<1階> ①46VA前 ②仕上台横 <2階> ③トイレ横 手洗い場横 ④彫刻機横↓

そのうち、②と③のエアークはシールテープを巻くことで改善しました。↓

その他の2か所についてはエアーク自体の破損(トリガー部分の破損、取り付け部のネジ山がバカになっている)為、交換が必要です。←

8月12日(土)

村越真織 17:17

【電気】↓

夏季休暇前に台風(念のため)☔対策で日よけ☀の一時片付けありがとうございました。↓

8月のデマンド(最大需要電力が今のこと昨年を上回らずにきていますので、休み明けも忙しいと思いますが、なるべく

同時に機械(成形機含む)の電源を入れずに30分以上ずらせるものはずらして使用をお願いいたします🙏 ←

3月6日(水)



小川正義 17:02

🔥 消火器訓練の日程が決まりましたので宜しくお願いします。↓

3/28(木)の午後1時から地震時の避難方法や消火器の使用方法和実際に使用体験を教わる予定です。↓

参加できる方パートさんも含め予定に入れておいてください↓

宜しくお願いします。←

7🙏2←

## 【来期の目標数値】 〈2024年度〉

項目	目標
CO2排出量の削減 ●電力使用量 ●灯油 (●ガソリン※1)	2023年度実績値 より -2% ※2
廃棄物削減	2023年度実績値 より -2%
ダンボール再利用率	発送件数に対して35%
水資源	2023年度実績値 より -1%
化学物質	適切な使用及び管理
自社の商品・サービスの提案促進	環境負荷の削減のための弊社規格の交換ダイセットの提案促進 環境に配慮した材料での自社製品の開発と販売

## 【来期の活動計画】 〈2024年度〉

### ◆CO2排出量の削減

#### 【電気使用量・ガソリン・灯油】

- ・断熱対策 →工場シャッター前対策の完了、屋根、外壁の遮熱材塗装工事など
- ・エネマネシステムを活用したピーク電力の管理
- ・エアコン使用基準の確認と見直しの継続（特に湿度対策）
- ・エアーガンのエアーリークチェックと記録表の作成（6月に実施予定）

#### 【灯油】

- ・ストーブのスポット使用

#### 【ガソリン】

- ・燃費チェックとエコドライブの周知と徹底

### ◆廃棄物削減

#### 【ゴミの排出量】

- ・ごみの排出量の集計と情報共有
- ・廃プラスチックの削減の工夫 →粉砕機を導入し廃プラの削減を行う

#### 【ダンボール再利用】

- ・エコシールの活用
- ・資材置き場の整理と工夫、定期的な再利用の呼びかけ

#### 【上質紙再利用】

- ・上質紙の分別と再利用の徹底
- ・印刷ミスを減らすための対策と呼びかけ
- ・データ管理の推進による紙の使用の削減

### ◆水資源

- ・水道メーターによる使用量の確認
- ・成形機チラーの有効活用

### ◆化学物質

- ・安全な管理と使用量の調査
- ・購入表の作成と運用方法の決定

### ◆防災

- ・避難訓練の実施
- ・社内の危険箇所の確認と対策

適合環境等法令	該当設備	順守状況
騒音規制法	射出成形機 3台 コンプレッサー 1台	届出
振動規制法	射出成形機 3台 コンプレッサー 1台	届出
廃棄物処理法	廃プラスチック 廃金属 廃油	委託契約
消防法（少量危険物）	放電加工機（加工液） 第4類2石	少量危険物貯蔵掲示
フロン排出抑制法	業務用エアコン11台	3ヶ月ごとに簡易点検

該当される関連法規において確認した結果、違反事項はありませんでした。  
また、過去3年間での訴訟、行政処分、関係当局等の違反はございません。

**◆電気の使用について****【良かったとこと】**

作業効率の改善で、売り上げに対して使用する電力量は減ってきていると考えている。また、シャッターからの熱の移動を防ぐために、シャッター前にカーテンを設置してみた。輻射熱が想定していたよりも防げ、断熱効果が大きいことが分かった。また、このカーテンに使用されている布は近所の工場で使用されなくなった本来廃棄される布を活用している。廃棄物を利用したエコ活動はとても良い取り組みなので今後も実践して行ってほしい。

**【課題、改善点】**

前述の断熱については施工したのが春先で効果が出るのがもう少し先だが、断熱効果が大きいことは窓の付近にビニールを取り付け疑似的に二重サッシを作って実験した結果、断熱効果が大きいことが分かっている。今後は今回施工した個所以外にも断熱効果が得られるよう設備や補修を実施していきたい。

また、工場で使用する電力はBCPの観点からも一定の電力を自社内で蓄電しておくなどの必要があると考えている。来期以降、ソーラーパネルの設置や蓄電池の導入を検討していきたい。

**◆廃棄物削減について****【良かったとこと】**

最も多い廃棄物は射出成形の過程で出る「ゲート、ランナ」だったが、金型の構造を改良することで必要最低限の材料で対応できるよう工夫をした。廃棄物削減を技術力で解決するのはものづくり企業としての本懐でありとても良い取り組みだった。使用されなくなった、もしくは使用される可能性が低くなった成形材料をECサイトで販売し始めた。少量でも必要としている方が購入されており材料の有効活用を目的にECサイトでの販売を継続していきたい。

**【課題、改善点】**

廃棄物の量を削減するためには前述のゲートランナの廃棄をさらに少なくしていく必要がある。来期は粉碎機を導入し、客先に廃棄物削減を目的とした「プラスチック再利用」に理解を求め、プラスチックの廃棄量をさらに減らしていきたい。

また、廃棄される予定のプラスチックを再利用した自社製品の開発も検討していきたい。

**◆水道使用量について****【良かったとこと】**

水の使用量は従前より適切に行われてきており、継続して節水は出来ていた。必要な個所には節水こまを交換するなど、適時設備の確認もしていた。

**【課題、改善点】**

水道使用に関しては現状課題はなく、継続して節水に意識して行ってほしい

**総括**

省エネという観点から「無駄なものを無くす」ことは意識できており、今までにない取り組みとして、今期は「廃棄されるものを減らす」「廃棄される予定のものを再利用する」ことが活発に行われていた。自社内から出るもの以外でも近隣の工場から廃棄物を受取って活用していた。ごみを減らす活動は企業理念にも通じている。エコアクション21導入以来、継続して省エネ活動をしてきたが、今期の取り組みは新しい一歩となることが多く今後の会社の事業活動にも大きく影響してくると考えている。来期以降も環境に配慮したモノづくりを推進していきたい。

以上